

うしく里山の会 広報誌

さとやま

(No. 61 2008年3月号)

NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
(牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

E-mail u_satoyama@infoseek.jp

HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>

「牛久市の社寺境内にある巨木・古木・希少木」

巨木リサーチ事業 〈渡辺 泰〉

<中根町鹿嶋神社のカヤ>

樹高17m 幹周347cm

巨木リサーチ事業の平成十九年度計画は牛久市の神社・寺院の境内にある巨木・古木・希少木の実態を調べることでした。牛久市内には大小60を超える社寺があり、そのうち25社寺にある68本の木を選び、種類、樹高、樹冠、周囲の植生などを明らかにしました。

調査木のうち幹周りが3mを超える巨木は14本でした。「市民の木」として指定されている巨木が社寺境内に32本ありますので、これらを加えると46本になります。希少木は8本にとどまり、その他の大部分はいわゆる古木でした。

巨木の樹種はイチヨウ・エノキ・カヤ・ケヤキ・スタジイ・ソメイヨシノ・ムクノキ・モミ・ヤマザクラ。希少木はアサダ・イイギリ・イヌシデ・ウコン(サトザクラの品種)・カシワ・ゴマギ・チャンチン。古木は43本ありましたが、巨木と想定して測定したものの巨木の区分である幹周3mに達していなかったものもありました。

常緑・落葉樹別にみると、常緑広葉樹がアカガシなど9種13本、落葉広葉樹がイロハモミジなど16種27本、常緑針葉樹がカヤなど3種3本で、大部分が自生種でした。

今回の調査で神社・寺院の境内の鎮守の森の姿や「牛久市版レッドデータブック」掲載種などの在りかを明らかにすることができました。地域住民によって育まれてきたこれらの樹木や周辺環境が次の世代に引き継がれることを心から念願しています。



うしく里山の会には

個性豊かなプロジェクトが

たくさん活動しています。

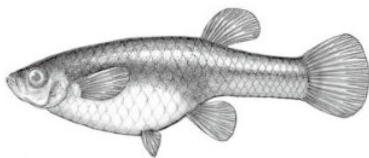


先月はどんなことがあったでしょうか？

それでは紹介しましょう！



メダカがとでも増えま
した。集団であつちこつ
ちに移動する様子は、見
飽きることはありません
ん。「なんかかじつぽのあ
たりが黒いのが居る」と
よく見ていたIさんが
云います。尾ビレのひら
ひらが黒いんです。イン
ターネットで調べたSさ
さんは「カダヤシ」と教え



カダヤシ

「えっ、こんな時期にも生きていられるの」
とビックリ。ウシガエルはオタマジャクシ
で越冬することを初めて知りました。
二・メダカ・グッピー・カダヤシ
メダカがとでも増えま
した。集団であつちこつ
ちに移動する様子は、見
飽きることはありません
ん。「なんかかじつぽのあ
たりが黒いのが居る」と
よく見ていたIさんが
云います。尾ビレのひら
ひらが黒いんです。イン
ターネットで調べたSさ
さんは「カダヤシ」と教え



アヤメ事業報告

横山 さえ子

アヤメ園周辺の動物たち (2)

一・カエル

春先見かけるのは、塊状のたまご。「こ
こにはアカガエルいないよ」という人も
います。草を刈っていると見かけます
よ」とMさん。アカガエルの卵です。ある
日、オタマジャクシに孵ったものが、びっ
しりとかたまっていました。その草取り
をしたら、三日後の作業の日は一匹もい
なくなっていました。コサギが全てを食
べてしまったのです。逃げ込めるところが
ないので、生き延びられないですね。紐
状のヒキガエルの卵も見かけます。現在
も五センチ位のオタマジャクシを見かけ
ます。

てくれました。外来種でボウフラを食べ
くすことから「蚊絶やし」と言うのだ
です。グッピーもいます。一寸赤つぽ
い目で目立ちます。熱帯魚なのになぜ
池にいますか。牛久沼から入ったと言
う人もいます。周りの水路は深く、大
水の時でも逆流することはありませ
ん。誰かがここに捨てていったので
しょうか。

三・ネズミ

Sさんの草取りの畝に「ネズミ」が居
るというのです。見に行くと、こぶし
二つ分位の穴に草がつめられ、目も開
かない赤ちゃんネズミが三匹いました。
毛も生えていない、歩くこともできませ
ん。何でも興味津々の私たちは、手
のひらに載せてじっくり眺めました。
うすピンクで、柔らかい、食べた
ら美味しそう。「あつ、親ネズミだ」
赤ちゃんネズミを元の穴に戻し、草
も少し足しておきました。次の時
までには大雨が降り、穴は水没。心
配したネズミの死骸はありませんで
した。安全な場所へ避難したのでし
ょう。でも親ネズミが三匹の赤
ちゃんをどのように運んだのでし
ょうか。

四・閑話休題

アヤメ園には、二箇所水が湧いて
います。池の中の一箇所は少し窪んで
いて、水が温かいのか、オタマジャ
クシ・メダカが身を寄せ合うよう
に集まっています。この池は、コサ
ギ・アオサギの格好の餌場になっ
ていますので、いつ食べられてしま
うのかと心配です。



巨木リサーチ事業報告
内田 一久

昨年の四月から里山の会「巨木リサーチ事業」の写真グループに参加させて頂きました。写真グループに参加とは言うものの植物知識に弱いため、撮影はさておき、事業代表である渡辺さんの巨木、古木、希少木のお話を聞くのが楽しみだったと言う状況でした。

参加してとても良かったのは牛久にも大きな木が沢山あるということと、また自分でも市内のあちらこちらを散策して大きな木がある場所を知っていたつもりでも、それ以外の場所に色々な木があるのを再確認したことです。更に、巨木に接すると同時に牛久の歴史なども身近に感じる事が出来ました。その理由は、今年度の調査対象地が神社だったこともあり、通常神社では木が伐採されることが少ないため、巨木・古木・希少木が多く残っており、結果として神社が調査対象になるのでしょうか。

十一月末の活動例では、小坂町の熊野神社（ヤブツバキ）、島田町の高福寺（イチヨウ）、桂町の一言主神社（イヌシデ）と金剛院（コブシ、スダジイ、モミ）の調査を皆さんと一緒にさせて頂きました。イヌシデは初めて知った樹でクヌギに似ています。灰白色の木肌がとても綺麗でした。場所が悪く全景写真は崖下に寝そべって撮影する様な大きな樹で、樹高や幹周を測定する方は足場も悪く苦労されていました。それ

でも樹に接することは楽しく、皆さん、和気あいあい楽しみながら調査をされている様でした。

今年の一月二十六日には、平成十九年度の事業報告会がネイチャーセンターで開催され、一年の活動結果として25箇所・68本の樹木の調査結果が報告されました。樹高、幹周、樹冠のデータ、周辺の植生の状況などに加え、各樹木の写真など広く市民の貴重なデータベースになるものと思われます。

今年度の調査で新たに巨木の仲間入りをした樹もあり、来年度は神社以外にも調査を広げる予定とのこと。従って、新たに牛久の巨木・古木・希少木の仲間入りがあるでしょう。巨木がいつまでも残り、牛久の財産として次世代に引き継がれて欲しいと思います。遠い将来に、牛久にも神代杉のようなとてつもない巨木が聳



・金剛院にて記念撮影・07.11.24 渡辺

え、大きな木陰で皆が憩うことが出来るよ
うな、そんな光景が目に浮かびます。

今月の巨木・希少木

No.11 シラカシ

ブナ科の常緑高木、高さ20mに達します。葉は表が深い緑色、裏側が緑白色で、写真のよう
に上半部の浅いギザギザが特徴です。福島県〜九州に分布し、本県にも広く自生。牛久では芽生えや幼木が屋敷林などの林床に沢山生えており、さらに生垣や街路樹として多く使われ



・果実（どんぐり）が膨らみ始めたところ 07.9.13

す。樹皮の色に由来するクロカシの別名もあります。
(渡辺 泰)





牛久自然観察の森報告

齊藤 孝

牛久自然観察の森連絡調整会議報告

去る一月三十一日、牛久市との連絡調整会議が行われました。この会議は年四回行われ、毎回、担当課と里山の会が指定管理者業務に関する具体的な意見交換を行う貴重な場となっています。

会議の流れは、まず観察の森側から四半期の事業報告を行い、次に市役所から検討事項が挙げられ、最後に観察の森からの要望提案、両者による協議の順となっています。会議の出席者は、市緑化推進課から山口課長、柳下副主査、里山の会からは坂代表理事、石神園長、齊藤チーフの5名です。

今回、第3四半期の事業に関しては、主に移動博物館開催による十二月の来園者増加と、使用電力削減実績についての報告を行いました。また、要望の増加している園内での撮影許可申請に関して、自然生態系に悪影響が出ない配慮を実施している事も報告しました。市役所からは、二月八日に実施の「ファイリング内部監査（文書及び物品管理に関する点検）」と二月二十日実施の「財政支援団体監査」に関して、その概要説明が行われました。（市による財政支援団体監査は初となります。次号にて結果詳細を報告いたします）

最後に行われた意見交換では、まず坂代表より、県道土浦竜ヶ崎線から市道進入路への押しボタン式信号機の設置要望が出さ

れ、続いて石神園長から、バツタ原正門前市道における横断者の安全確保の為の措置願いが出されました。（いずれも本会議後に担当課から関係各所へ要望が出されたとの事です）また、みどりの保全区エコアツプ作業後の材の処分に関して、必要に応じて緑化推進課の回収処分が可能である事も確認されました。

次回の連絡調整会議では、平成二十年度の指定管理業務に関する最終的な確認を行う予定となっています。

結束町みどりの保全区エコアツプ作戦
活動報告

齊藤 孝

結束町みどりの保全区エコアツプ作戦
参加者募集のお知らせ

雑木林の下草刈りもかなりの面積まで広がってきました。会員の力を結集して元気な森づくりを行いましょ！

【3月のエコアツプ作戦は

2回実施します】

十五日（土）午前九時～十一時三十分

十六日（日）午後一時～三時

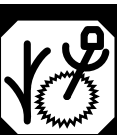
（集合場所・時間）

ネイチャーセンター1階倉庫前

予約不要（雨天中止）

持ち物：長靴、軍手、タオル、帽子、飲み物（長袖、長ズボン）※刈払い機やチェーンソーの使用は資格所有者に限りです。問い合わせ先：うしく里山の会事務局

(029-874-6600担当：齊藤)



雑木林応援隊活動報告

雨宮 廣之

公開講座として炭焼き参加者を一般募集しました。昨年末に「公報うしく」に募集原稿を提出し、二月号への掲載で募集期間一週間にも係わらず、総勢三十一名の参加者が有りました。その中で「文間里山の会」の方達は、昨年より炭焼きを覚えたいとの連絡を受けていたのですが、天候により延び延びとなっていたものです。今回は、十九名が参加して頂きました。一般参加者は、十二名です。

受付後、おおよそ三名で一缶を担当する組み分けをし、応援隊のメンバーが炭焼き方法を説明します。ペール缶、煙突、炭材、新聞紙等は準備済で、出来れば炭材の切り出しから体験して、貰おうと思っていたのですが、三時過ぎには雪かみぞれになるとの天気予報のため、応援隊で出来るだけの準備をしています。



今回は、参加人数が予想以上に多かったです。当初は五缶で考えていたものを急遽十缶に増やしました。そのため焚き口が足りなく

なり、慌てて竹椅子の土台を利用しています。

缶を埋める穴を掘り、炭材を詰めたペール缶を入れます。炭は、いわば蒸し焼きにする訳ですから、缶の下にスペースを作り、そこにも熾き火を入れ、全体に火が回る工夫をします。缶の後方には煙突を付けて、焚き口を作ります。最後に全体を土で覆えば完成です。初めての火入れは緊張しますが、早く温度を上げ、煙の色で進捗具合を判断します。自主的に竹酢液を取っている人もいました。火を入れてしまえば、後はほとんど燃やすだけです。基本的に、煙の色は、水蒸気を含んだ白、竹の成分が出てくる黄色、それから青くなり、次第に透明になりますが、経験しないとなかなか分かりません。煙が透明に近づいたところで、小さな空気穴を作って、焚き口を塞ぎます。

煙が透明になれば全体を閉めて自然と火が消えるのを待ちます。

三時まで七缶から炭を出しました。うまく焼けている方、後の方が半焼けの方。それでも初めての成果ですので、皆さん嬉しそうに持ち帰って貰いました。

昼食には応援隊名物の具沢山みそ汁で歓迎します。炭焼きの途中なので、皆竹製のお椀を抱えて火の番です。お花炭の作り方も覚えて貰いました。こんどは皆さんが炭焼きを教える番ですが、お花炭は簡単にキレイで、きつと喜んで貰えるでしょう。



里山自然観察隊活動報告

平塚 芳雄

二月九日（土）、里山自然観察隊プロジェクトの定例会を開催しました。参加者5名。今回はこの一年間の活動のまとめ、来年度活動計画の確認及び当プロジェクトの課題等について話し合いました。

今年度の主な活動としては一般市民向けの「植物ガイド」と里山の会・会員主体の「植物観察会」が挙げられます。「植物ガイド」は年間4回の実施を計画し、内1回は雨天のため1週間延期しましたが、4回とも無事実施することができました。延べ58名の参加がありました。今年度新たに参加された方は4名。ただ、継続しての参加は少なかった。「植物観察会」は5回開催し、会員外の一般の方3名を含め延べ44名の参加がありました。今年度の「植物観察会」は小野川上流域の右岸（猪子）と左岸（東大和田）の林地（雑木林）及び湿地（水田）を観察フィールドとして同じ場所を季節を変えて複数回調査しました。それらの場所、草本が湿地で約90種、林地で約109種。木本は林地で約45種の種類及び発生量の確認ができました。

来年度の主な活動としては今年度に引き続き、「植物ガイド」と「植物観察会」を2本柱とし、成果公表の場としての「環境フェスタ」への出展及びメンバーの能力向上のための見学会・研修会の実施も計画しています。

「植物観察会」については今年度を初年度とする三カ年計画として、小野川流域3地域（市内での上流、中流、下流）での調査活動を行うもので、来年度は観察の森近くの中流域を観察対象地域に考えています。ただ、これら活動を推進していくに当り、現在、当プロジェクトは幾つかの問題点・課題を抱えています。

第1の課題は活動内容のあり方です。如何にしてNPO法人の活動に相応しい活動内容（個人の楽しみ・趣味↓社会貢献）にしていくか。第2の課題は活動要員の確保です。現在のメンバーで知識・経験の豊富な方々は活動日以外の活動・用事と重なり、当プロジェクトの活動に参加できないことが多いという現実。第3の課題としては活動内容とも関わるのですが、意味のある成果を上げることができるのかと言うことです。差し当っては「植物観察会」で調べた結果をどう活かすかです。



このような課題を抱えながらですが、来年度も植物の生育という観点から地元という観点を観察・調査し、現状を観察・調査し、「うしく里山の会」の設立趣旨に相応しい活動内容にしていきたいものと考えています。

皆さんの当プロジェクトの活動への参加をお待ちしています。



じゃがいもプロジェクト活動報告
本多 昭子

森に楽しく・美しい畑を！

会員だけでなく、一般参加の家族と一緒に里山の原風景をちよつと再現したいのです。

じゃがいもプロジェクト今年の活動予定
原則毎月第三土曜日に活動します。

三月十五日(土)午後一起耕

三月二十九日(土)午前九時から一般参加の人と種芋の植付けをします。

その気になった日の参加もOK。
是非参加してください。

収穫祭は七月二十九日と十一月十五日を予定

—コラム— 村の生活

「犬供養・ザガマタ・ヌルデ」

利根川流域(千葉県・茨城県)に伝わる民間信仰で子安講の一つとされ、安産祈願と動物供養の両方の性格を持ちます。宅地化が進む牛久市域でも数カ所で見られ、伝統は守られています。犬供養は地域によって呼び名が異なり、供養する主

体も異なります。普通は「女人講」や「不動講」の講中が「犬供養」をすると云うもので、「イヌトムライ」とも呼ばれています。呼び方が異なっても、目的は一緒で、2月の初午翌日に行われ、お産が軽いと言われる犬の供養をして安産を祈願すると云う若い女性の集団行事です。しかし、農村部では高齢化が進み、対象となる年代の女性(三十五歳以下・地域によって年齢も異なる)が居なくなつたことなどでこの犬供養の存続が危ぶまれています。

通常は講中の者が近くの寺にヌルデのY字型の枝(皮をむいて表面を平らに削つた)を持参し、僧侶の読経の後、平らな面に経文を書いてもらい、集落の辻に立てます。これを「犬卒塔婆」と称し、通称「ザガマタ」と呼んでいます。

ザガマタとは、「逆さ股」が変化したものと考えられており、「股」即ち、子産みをする場所、つまり女性の股であるとされています。その犬卒塔婆は集落の外れの辻まで運び、厄が集落に入り込まないようにという祈りを込めて立てられました。

ザガマタにはヌルデというウルシ科の落葉小高木が用いられてきました。

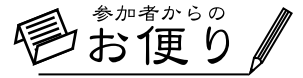
ヌルデは、ヤマを皆伐した後、最初に生えてくる落葉小高木で、他の樹木よりも成長力が早いこと、梅や桃などとともに縁起がよい木とされてきました。木の特徴としては、丈夫で軟らかく、燃やすと飛び跳ねて薪などには不向きであることなどから、他にはほとんど役に立たない木とされてき



今でも残るサガマタの風習

ました。しかし、役立たないヌルデにも注目される理由がありました。その理由は、ヌルデが『材は小細工箱類を作るに用い又薪材となして中等なり之を焚けば爆発聲(声)をなす故に僧家にて護麻木となす此材は勝の木と云ひ昔は年始の祝木に用ひ又削り掛けを作りしものなり』とありますように、信仰・儀礼用具として利用され、一部の宗派では護摩木に用います。

セクハラ問題で一躍脚光を浴びた岩手県黒石寺の「蘇民祭」では、数百本の六角形のヌルデの木が入った蘇民袋を裸の男たちが東西に分かれて奪いあう行事が有名になりました。これを得たものはその一年幸運であるという言い伝えがあります。



参加者からの

お便り

このコーナーでは、活動に参加した一般の方から頂いた感想を紹介しています。
今月はじゃがいもプロジェクトから頂きました。

平成十九年十一月の芋煮会に参加されて、会報12月号に掲載しきれなかったかたの感想です。

この『ことば』に励まされて、今年もがんばりましょう。

「とても楽しくイモ堀りが出来ました。子どもの笑顔、妻の笑顔がたえなかったのは夫してうれしいです。サトイモの汁も大変おいしく頂きました。また参加したいです。」

「とても楽しい一日でした。里芋のなり方など子どもにとって大発見のできる企画ですね。その後、収穫したものを調理して食べて食育ですネ。ありがとうございました。里山の会の方お疲れ様でした。」

「たのしかったです。カレーうどんがとてもおいしかったです。ぜんぶたべておかわりしたよ。にしももか 3歳」

「たのしかったですよ。ながいたつや」

「里いも、さつまいも、ヤーコンといろんな種類の収穫体験をさせていただき、親も子どもとても楽しく夢中になりました」

た。とりたてのお芋の入った芋煮もびつくりするほどおいしく、カレーも大満足でした。いろいろありがとうございました。水谷」

「今日はありがとうございました。なかなか里いも堀りをする機会はないので、貴重な体験ができました。子どもは大きな葉っぱ、ゴロゴロのおいもに大喜びでした。いも煮とカレーうどんは最高においしかったです。たくさんおかわりしました。また、よろしく願います。高橋」

「子どもと一緒に出来て良い思い出になりました。また機会があれば参加したいです。」

「里いものお芋ほり、初めての体験でした。息子はカエル、トカゲと遊びつつ芋堀を楽しんでいました。自分で掘ったお芋たっぷりの芋煮はとてもしつたらしくおかわりを頂きました。貴重な体験ができてとても感謝しています。一才の息子も土いじりを楽しんでおり、家族で楽しい一日でした。片野はるみ」

「今日の料理はたいへんおいしかったです。何回もおかわりさせてもらいました。また参加させて下さい。高橋寿真」

イベント開催のお知らせ

巨木・古木・希少木の資料・写真の展示報告会

日時：二十日（祝）、二十二日（土）、

二十三日（日）午前十時～午後三時三十分

〈報告会〉午前十時～午後一時

※牛久市内の寺、神社街路樹の写真・調査

用計測器具の展示と解説

※広報うしく連載中の「わが街の木」オリジナル写真も展示されます。

主催：NPO法人うしく里山の会（巨木り

サーチ事業）

協力：牛久市（緑化推進課）

広報委員会よりお知らせ

■次号4月号の印刷発行は三月二十六日（水）です。

午後一時からネイチャーセンターで行います。お手伝いいただける方は一時までにお越しください。よろしくお願いいたします。

3月の里山カレンダー

※活動美は都合により変更になる場合がありますので、最新情報はホームページでご確認ください。

日	月	火	水	木	金	土
						1
2 ○南部の自然を守る会(農地水) 8:00成井公会堂 ○巨木リサーチ(受) 9:30NC	3 (休園日) ○アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	4	5 ○雑木林畑隊 13:00畑	6 ○アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	7 ○雑木林畑隊 13:00観察舎畑	8 ○里山自然観察隊 9:30森P (会報等原稿メ切)
9 ○雑木林応援隊 9:00ムジナ	10 (休園日) ○アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	11	12	13 ○アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	14	15 ○エコアップ作戦 9:00NC ○じゃがいも 13:00梅林畑 (雨天時22日)
16 ○運営委員会9:00NC ○広報11:00NC ○エコアップ作戦 13:00NC	17 (休園日) ○アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	18	19 ○雑木林畑隊 13:00畑 ○巨木リサーチ(受) 13:00NC	20 (春分の日) ○アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P ○巨木古木リサーチ(受) 9:30NC (展示報告会)	21 (休園日)	22 ○巨木古木リサーチ(受) 9:30NC (展示報告会)
23 ○雑木林応援隊 9:00炭小屋 ○巨木古木リサーチ(受) 9:30NC (展示報告会)	24 (休園日) ○アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	25	26 ○雑木林畑隊 13:00畑 ○会報発送 13:00NC	27 ○アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	28	29 ○じゃがいも 8:30梅林畑 (雨天時延期)
30	31 (休園日) ○アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P					

森：観察の森、NC：観察の森ネイチャーセンター P：駐車場、畑：観察の森駐車場奥の畑

コジュケイ：観察の森内コジュケイの林、観察舎畑：観察の森内観察舎前の畑、ムジナ：結束町の雑木林（通称ムジナの里）

市：牛久市役所、アヤマ園：三日月橋観光アヤマ園、(受)：受託事業、(休園日)：観察の森休園日

編集後記

梅の花が咲く頃

梅の花が咲くと気になるのは、水戸の偕楽園でもなく、筑波山の梅祭りでもなく、実家で漬ける梅干です。以前観察の森で開かれたレンジャートレーニングセミナーの中で、「身の回りの不変性」と言う質問がありました。今思うと実家で漬ける梅干が一番変わらないう味(多少減塩になったりしたけど)で、かれこれ約30年食べ続けています。兄や梅干を漬ける母はもっと長い間梅干を食べているんですね。

ちなみに、梅干は塩分が15%以上あると、何年でも腐らず、食べられるそうです。テレビで見た100年前の梅干は、見た目は普通の梅干とは違い、塩が結晶になって梅干の周りを覆って白くカラカラになっていました。お値段は一粒5000円って言うってたような…。

実は僕も、長い間保存された梅干を食べてみたいと思ひ、高校生の時に漬けてから一度も開封していない梅干の壺があるので、ここは我慢です。

部屋で大切(?)に保管し、気が付けば十三年たちますが、中はいったいどうなっているのでしょうか?開けて見てみたいけど、開けたら価値が下がる気がするのです。あと三十数年、楽しみはゆっくり時間をかけて、熟成されていきます。

(記 若林 和浩)